

熊本県内小中生への 喫煙に関するアンケート調査

くまもと禁煙推進フォーラム副代表
たかの呼吸器科内科クリニック院長
高野義久

背景

- 未成年の喫煙は法律違反という問題だけではなく、ニコチン依存症の形成を促進し、将来の死亡率が増加させ、健康を大きく損なうこと、非合法薬物使用や非行問題など未成年の生活や将来を脅かすなど多様な問題があることが知られている
- 未成年の喫煙ゼロを目指して社会全体で真剣に取り組まねばならない
- 熊本県は、未成年の喫煙防止に有効とされる学校の敷地内禁煙化が他府県より進まず、未成年者の喫煙問題に対する取り組みが遅れている
- くまもと禁煙推進フォーラムでは、熊本県内の小中学校において、依頼を受け、喫煙防止のための授業を行っている
- 我々は、喫煙防止のための授業に行った小中学校の生徒を対象に小中学生における喫煙の実態を調査した

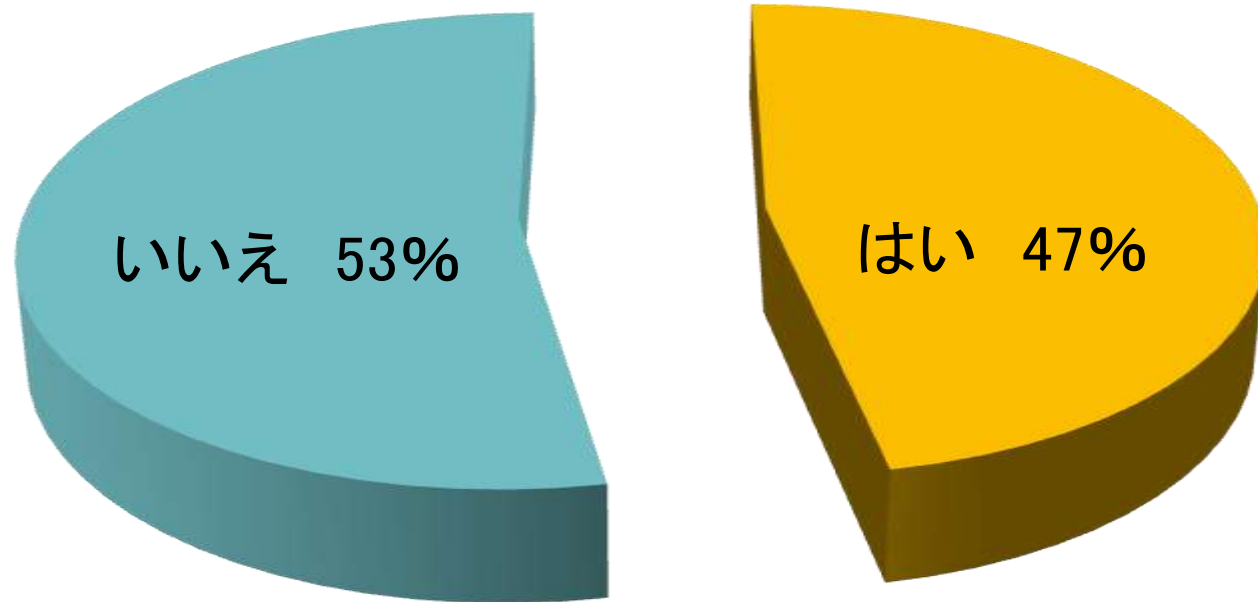


方 法

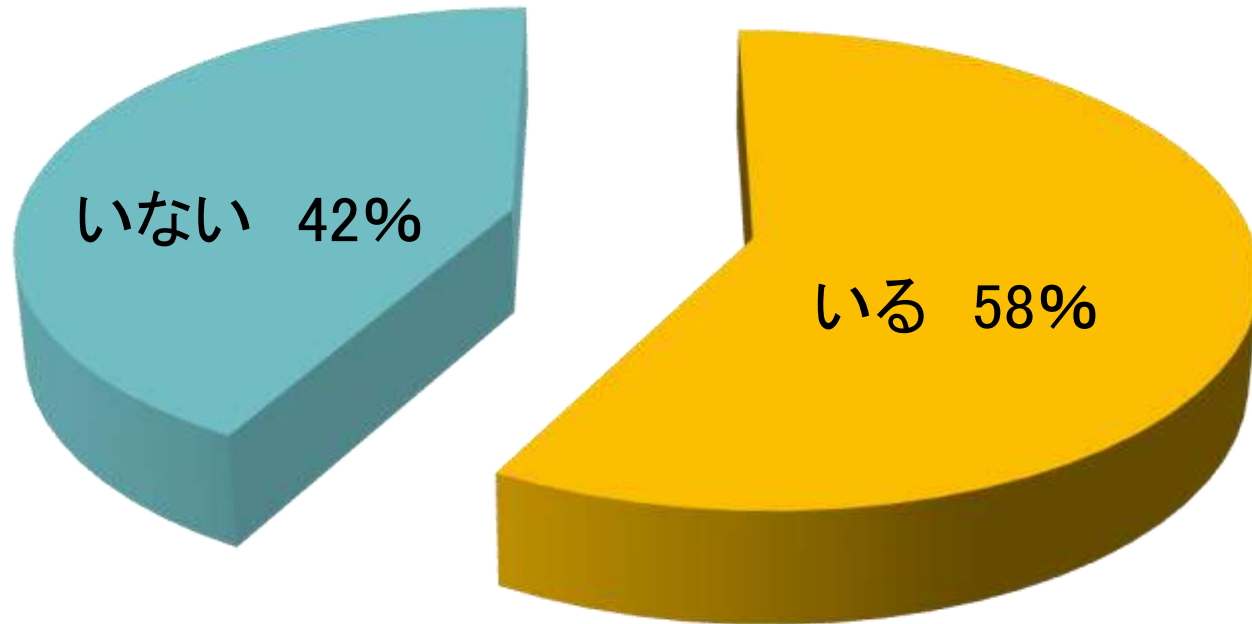
- 2010年4月～2011年3月にかけて喫煙防止のための講演を行い、調査の同意を得られた小中学校13校(小学校5校、中学校8校)
- 対象者は小学校5～6年生185名および中学1～3年生1429名、合計1614名
- 性別の内訳は、男子843名、女子771名



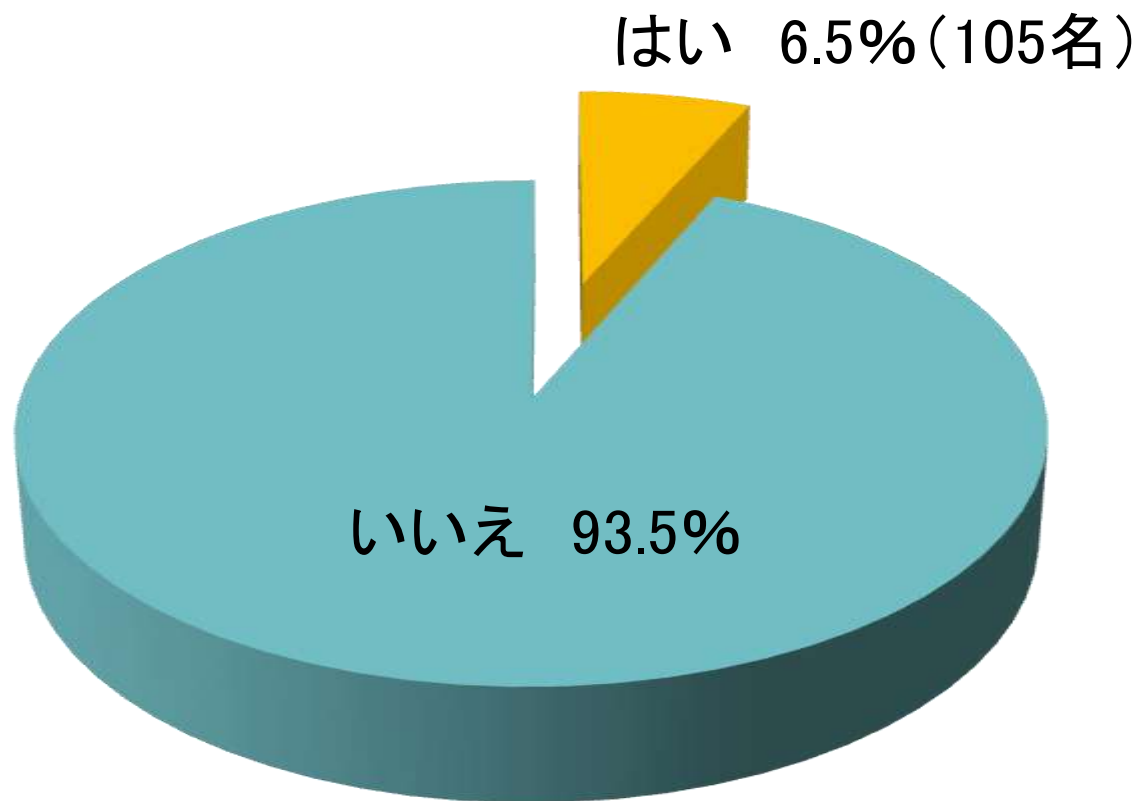
日頃から誰かが吸ったタバコの煙を
吸い込んでしまいますか？



家でタバコを吸う人がいますか？

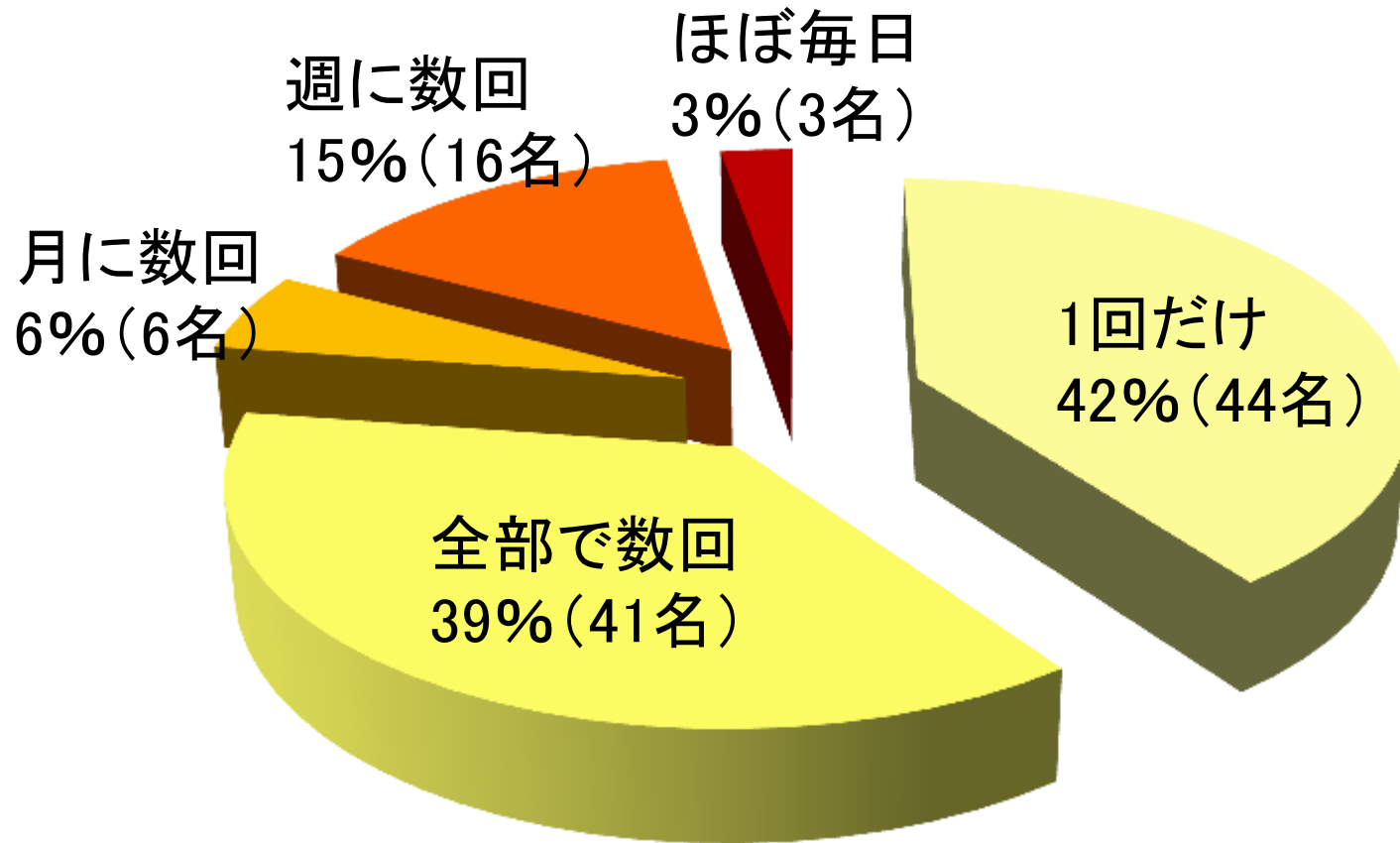


これまで1回でも タバコを吸ったことがありますか？



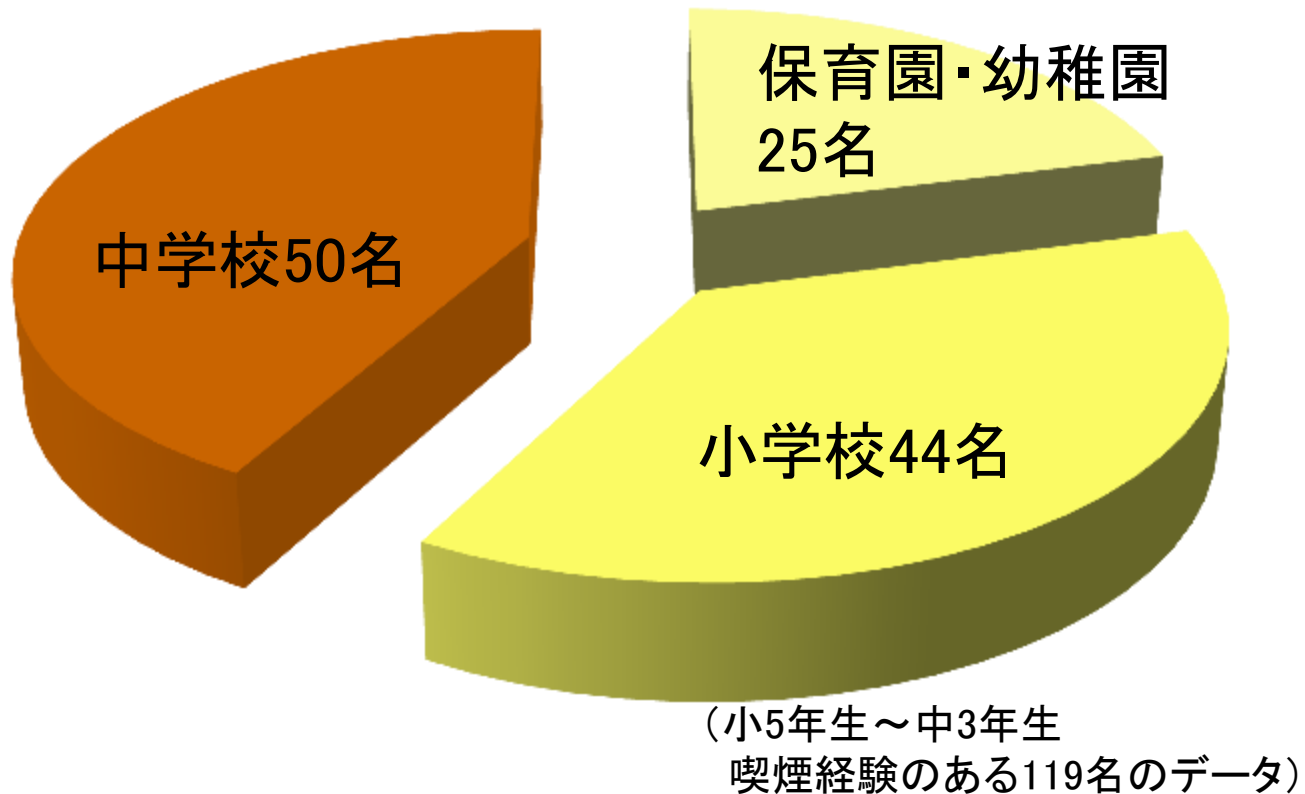
(小5年生～中3年生1614名のデータ)

何回くらい吸いましたか？



(小5年生～中3年生
喫煙経験のある105名のデータ)

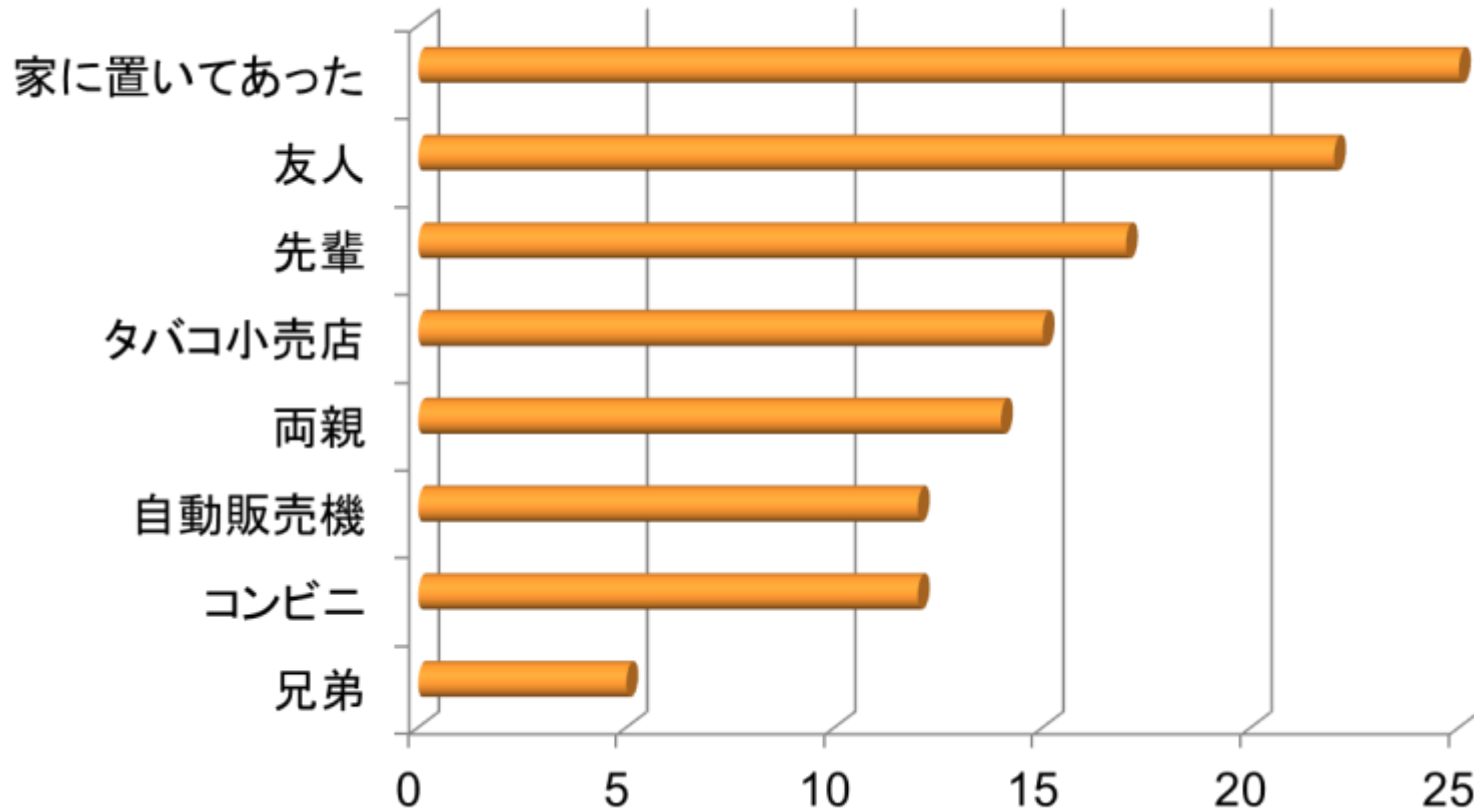
生まれて初めて吸ったのはいつでしたか？



この欄に記載のあった中学生の回答数の合計は108名であり、「喫煙した経験がある」と回答した数94名より14名多く、この欄に回答があった小学生と中学生の合計は119名(7.4%)に上った

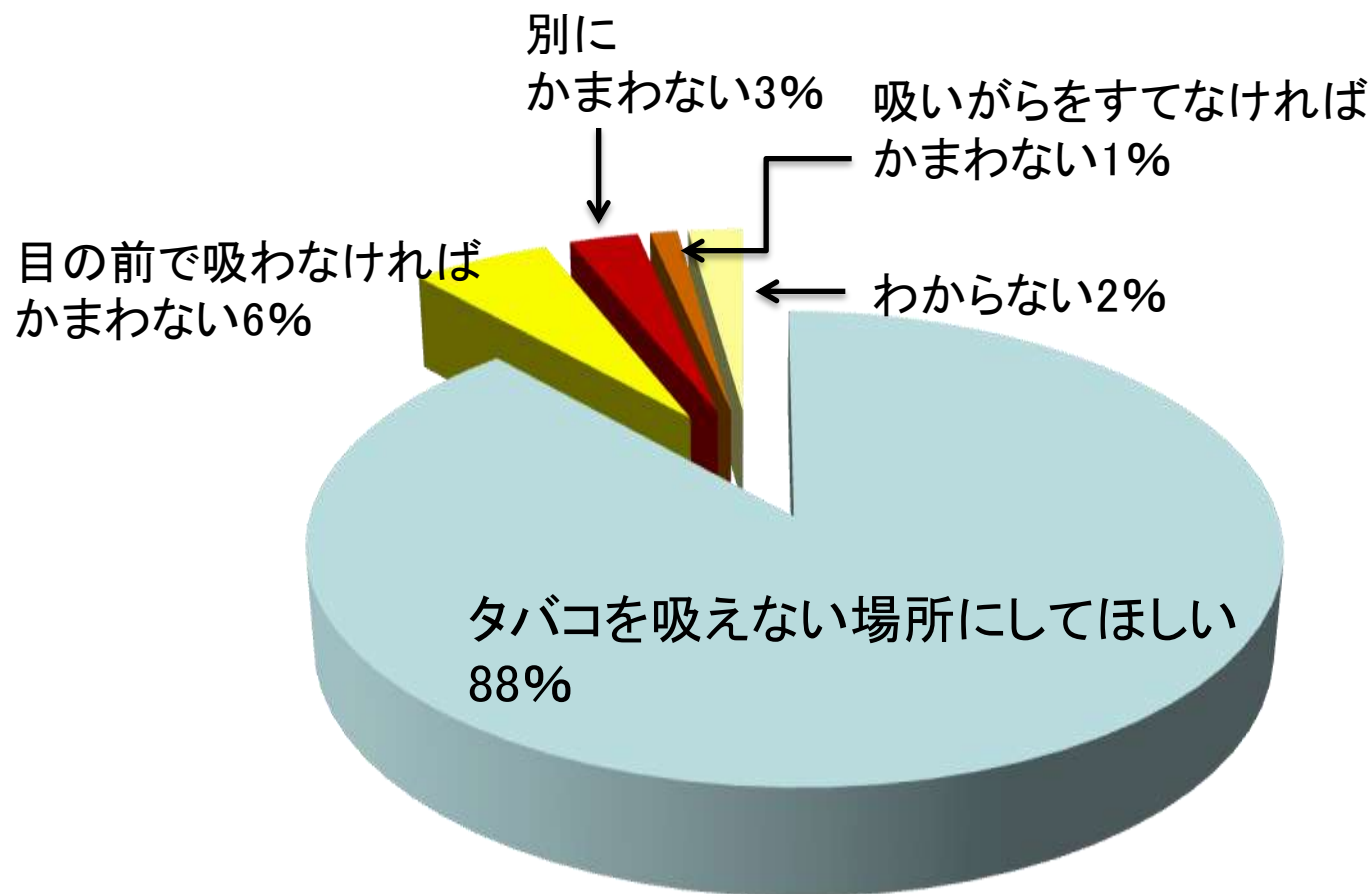


タバコはどのようにして手にいれましたか？



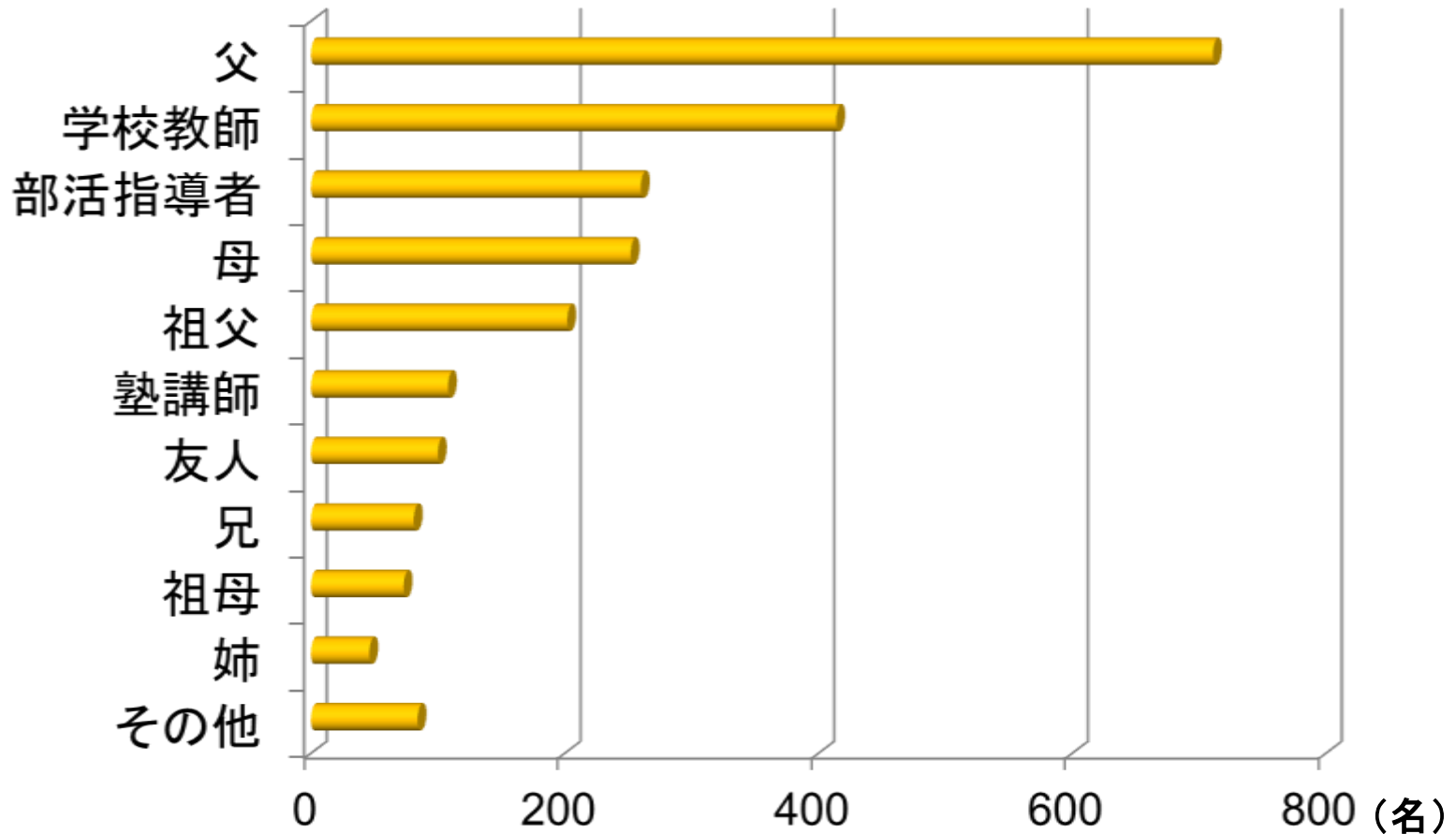
(小5年生～中3年生
喫煙経験のある105名のデータ)

学校をタバコの吸えない場所にしてほしいですか？



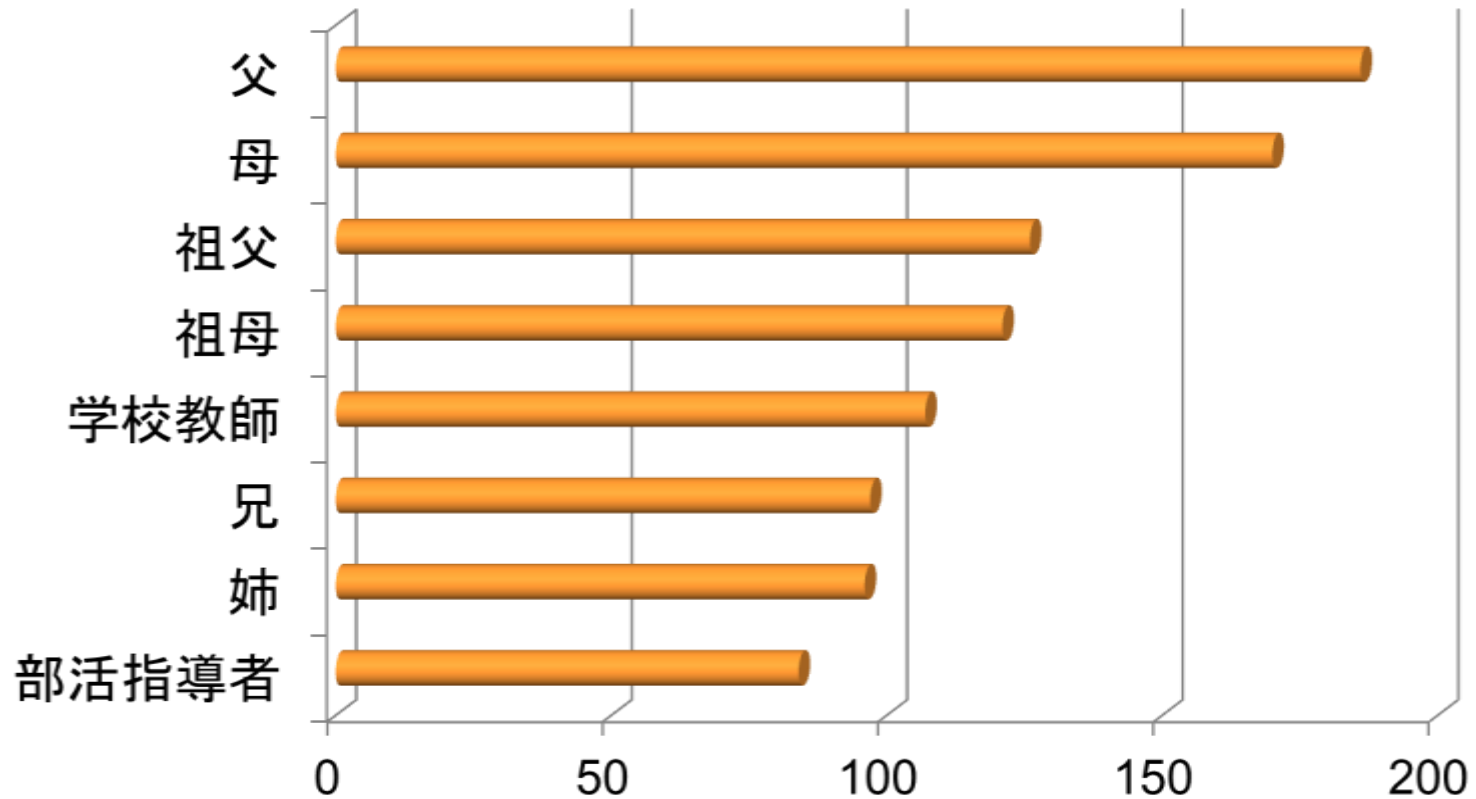
(小5～6年生、185名のデータ)

あなたのまわりでタバコを吸う人は？



(中1～3年生1429名のデータ)

タバコをやめて欲しい人は？



まとめ

1. 熊本県の小中学生1614名に対して、喫煙問題に関するアンケート調査を実施した
2. 小中学生の47%が受動喫煙にさらされ、58%は家族に喫煙者がいた
3. 少なくとも6.5%に喫煙経験があり、ニコチン依存症と推察される者も認められた
4. 初めての喫煙時期は保育園・幼稚園と回答する者もあり、低年齢で喫煙を開始していた
5. タバコの入手経路は、家庭以外に友人や先輩、タバコ販売店であった

考 察

1. 喫煙環境は子供の喫煙開始に重要な要因とも言われている。未成年の喫煙防止のため、家庭、学校やクラブ活動ではタバコのない環境作りを進める必要がある。
2. 我々は、公衆衛生の向上、健康づくりの専門職として、未成年者の喫煙防止に取り組む必要がある。
3. 具体的には、日本医師会の宣言にあるように
 - * 禁煙を推進するための諸施策について関係各方面への働きかけを行うこと
 - * 学校保健の場を通じて、児童・生徒にタバコの有害性などについての健康教育を実施すること
 - * 公共的施設の敷地内全面禁煙を国や自治体に働きかけることであると考察した。

